

「お坊さんからの手紙」 八通目(平成二十五年十月)

仏さまは仰いました。

「いつも次のことを考えなさい。いま、自分は何をしているのか。自分のしていることは自分にとって大事なことになるか。人にとって大事なことになるか。そして、大勢の人にとって大事なことになるか。国じゅうの人にとって大事なことになるか。世界の人にとって大事なことになるか。この自然にとって、あらゆる生きものにとって大事なことになるか。こころをよく考えなさい。そして、もしそうでないと思ったらやめなさい。よい。なぜなら、この世のものはみんなひとつにつながっているのだから。」

冥加



私たちは、数えきれないほどの多くの支えがあって、今を生きていることができています。仏教では、こころを「冥加(みょうか)」と言います。「冥」とは、「直接、目で見ることができない」という意味で、「冥加」とはこの「冥」という支えが加わっているということです。

日本人は、昔から「冥加」を「おかげさま」という言葉で表現し、感謝として生きてきました。こころを古くからある日本人の宗教的なのだと思います。

現代を生きる私たちはどうでしょうか。「おかげさま」と感じ、感謝して生きていくでしょうか。大自然や、あらゆる生きものにとって、本当に大切にしなければならぬ事を学び、行動しているでしょうか。自分達だけのことや、見えるものだけに目を捉えているだけでいいでしょうか。

環境に染まる



人間は、非常に周囲に影響されやすく、染まりやすい生き物です。そして、染まりきり、様々な感性が純粋でなくなります。今ある環境に慣れすぎてしまい、何も感じなくなっていくことはとても恐ろしいことです。

良きにつけ、悪しきにつけ、人は環境によって変わるし、環境は人の都合によって変えられます。良き環境を数えるためには、良き人を育まなければなりません。このためにも、改めて人間のこころの教育が必要であると感じるのです。

「本当に大切にしなければならぬのは何であるのか」という根本的な価値観を見つめ直し、共感共有していくことが、何よりも重要ではないかと私は思っています。

目に見えないつながりを感じる



一人ひとりが、知ることと喜び、考えを深めながら、動き出していくことで変化は始まります。その根幹となるのが、先述した「冥加」と感知する心のつながりです。こころこそが、人間軸から、地球軸へと考え方を移していく原動力になると私は信じています。自然、あらゆる生きもの、そして自分、すべてが繋がっていると感じる感性を、今こそ呼び覚まさなければと思うのです。本当に大切なことは、いつの時代も不変です。だからこそ、私たち人間の心の在り方が大切なのです。